

ご 挨拶

鮫島一彦

「四国紙パルプ研究協議会」は四国地域の紙パルプに関する学問及び技術の発展を図ることを目的に昭和50年（1975年）に発足した団体です。四国地域の紙パルプ産業は、古来の和紙製造技術を出発点としながらも、多様な分野に発展、展開し続けています。「紙は文化のバロメーター」と言われ、国の文化発展の程度を示すものとされてきました。四国地域は日本の製紙産業の中でも大きな地位を占める「紙関連産業集積地域」のひとつであり、日本全体の文化を支えてきた地域のひとつともいえます。当「四国紙パルプ研究協議会」は、産学官の製紙関係者が直面する様々な問題を協議するための機会を提供するとともに、講演会の開催、技術ニュースの発行などを行っています。この地域の持続可能なさらなる発展のためには、四国地域に限らず、他の地域の関係者の協力も得ながら、より広い視点・分野からの情報交換、交流も必要です。グローバル化や産業の多様性の深化などに対応するためにも、ますます当協議会の存在意義はさらに高まるものと考えます。

当会のこのホームページの開設が平成26年（2014年）3月の企画委員会で提案されました。これは、現在の紙パルプ産業の置かれたもろもろの時代背景（資源問題、地球環境問題、世界平和の問題、さらには東日本大震災後の日本経済の状況など）を考慮し、今後の持続可能な更なる発展を期するためにはグローバルな発展とも繋がり得るネット環境の整備に寄与することも必要と判断したからでもあります。四国地域では、将来の紙関連産業のために、様々な新しい試み、例えば、人材養成事業、教育体制の整備、情報伝達手段の整備などが立案され、着々と実行されてきています。当協議会もこれらの発展と連動しながらこのホームページを含め様々な形での情報発信をし続けることが大切だと考えます。会員の皆様、専門家、現場の技術者ばかりでなく、多くの分野の学生さんや、一般の方々にも役立つホームページになることを期待しています。皆様のご意見、ご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。